

2022年度 学校関係者評価 報告

1. 学校関係者評価の概要

1) 基本方針

実践的な職業教育の質を担保するため、自己点検・自己評価の結果について、客観性を高めるとともに、保護者、その他の関係者（教職員を除く）による評価を通して、継続的に教育活動及び学校運営の向上を図る。

2) 評価結果の活用方法

年1回開催される学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価の結果について説明を行い、委員からの評価、意見を求める。委員からの評価を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。改善点や課題について学校運営会議で報告する。改善を必要とする項目について8月以降、副学校長が対応を検討し必要時、教務会議で決定し実施する。

2. 学校関係者評価委員

古賀 徳之	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 病院長
杉本 美由紀	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 副看護部長(教育担当)
村山 由起子	製鉄記念八幡看護専門学校 同窓会 若竹会会長
日高 春加	製鉄記念八幡看護専門学校 学校後援会会長

3. 開催日 2023年6月6日(火)

本年度の学校関係者評価は書面をもって意見交換及び質疑・応答を行った。

4. 学校関係者評価 報告

1) 自己点検・自己評価項目及び結果 (3.0満点) まとめ別紙

I 教育理念	2.7
II 教育目標	2.7
III 教育課程経営	2.4
IV 教授・評価過程	2.3
V 経営・管理過程	2.1
VI 入学	2.5
VII 卒業・就業・進学	2.6
VIII 地域社会・国際交流	2.1
IX 研究	1.6

2) 意見

- 教育理念、教育目的について教員のみでなく学生へも浸透できている点は、そのための取り組みに対して評価できる。教育目標評価項目の「卒後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している」については、教育目標のどの項目で継続教育を示しているのか、外部者からは明確に読み取れない部分もあるので、教員と学生とで共通理解できる取り組みが必要ではないか。
- 卒後数年での離職率が高くなっている傾向にあるため、対策を検討し、卒後3年目までサポートに取り組んでいる事は良い点である。
- 教員のスキルアップのため、看護管理者教育課程ファーストレベルの受講や大学編入、大学院進学への推奨を促していることは、非常に良い。
- 看護部でも、研究に取り組み、学会発表まで行う症例は減少しているが、やはり何か改善すべき事や、課題を明確にして研究に取り組みその成果をまとめ発表するという事は重要であるため、目標を設定し取り組まれるとより良いのではないか。
- 保護者から見て、学校の教育体制が非常に良いと感じている。学校の規模としては小規模ではあるが教員の人数も11名と多く、個別性に対応してもらえる点がとても安心できる。また、アットホームな雰囲気があり卒業生と入学生も知り合い同士であることが多いと感じている。入学後からの学生の成長を誇らしく感じている。
- 学校後援会の意義は大きく、役員と学校との関係も良好であり、連携が図れている。役員との関係だけでなく、全保護者へも学校生活や教育体制についてもっと理解を深められたら良いと考える。保護者会という機会は非常に有意義であり、対面が望ましいが電話でも全保護者との面談ができると良い。

3) 質疑・応答

- 教育課程経営の項目で評価点数が低い理由として、教育課程における根拠や科目の構成や教員に教育方法に迷いがあり妥当ではないと判断されたことなのか、時間内に授業準備が行えないことに対してなのか、次回の評価までに改善出来る事があれば具体的な対策の検討が必要ではないか。
→勤務時間内に授業準備ができない（評価平均1.2）、教員相互の研鑽システムがない（評価平均1.9）この他、教育評価の体系が整っていない（評価平均1.9）、他の教育機関との単位互換性が十分でない（評価平均1.7）といった項目で評価が低くなっている。教育評価の体制を周知することとさらに確立していくことは課題である。授業準備時間については年間業務の中で計画的に取り組んでいく考えも浸透させていく必要がある。
- 教員の図書購入費について十分活用出来ていないようだが、図書を参考に授業構成や準備もされていると思われるため、活用はされているのではないか。
→年間5万円/人の予算があるが、ほぼ使用していない教員もあり、講義・実習だけでなく教員としての質向上につながる文献の購入を勧めていく必要がある。